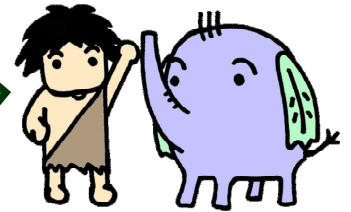


# EM菌生ごみ処理容器の使い方

EM菌の働きで生ごみを発酵させ、良質な肥料が作れます。畑や庭などで安全で美

味しい野菜を作ってみましょう♪

生ごみは新鮮な  
うちに入れよう♪



## 生ごみの処理方法

### 準備

- EM ボカシをファーマーズセンターなどで購入します。(半年ぐらいは保管可)
- 底に新聞紙を敷き、EMボカシを底が見えなくなるまで**たっぷり**とまきます。

- ① **しっかりと**水切りした生ごみを容器に入れます。生ごみは細かく切ると、さらに良いですよ。
- ② EM ボカシを**たっぷり**とふりかけて、追加した分のEM ボカシと生ごみだけをかき混ぜましょう。  
※臭いが強い場合は、ボカシを多めに！
- ③ フタを**しっかりと**閉めましょう。

- ④ 発酵液がそこに溜まったら、蛇口を開けて**こまめ**に取り出します。

◎発酵液の活用 500~1000倍に希釈して散布します。

※濃すぎると栄養過多で枯れてしまう恐れがあるので、気をつけてください♪



- ⑤ 1~4を繰り返し、生ごみが容器の8分目ほどになったら、**しっかりと**密封して1週間(夏)・2週間(冬)ほど発酵させましょう。(この発酵させている期間は、もう一つの容器を使用しましょう。) 目安は、ぬか漬けのような発酵臭です。また、白いカビが発生する場合がありますが、このカビは良い菌で完成の目安です。



## 上手に活用するコツ

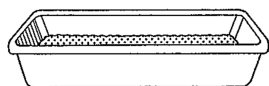
- 容器は直射日光が避けられる場所に置く。
- 生ごみはその日のうち、新鮮なうちに入れる。
- 分解が早く進むので、生ごみは小さく切る。
- **しっかりと水切りする。** (最大のポイント! 水分が多いと臭いの原因となる)



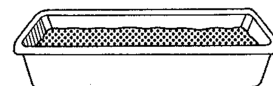
- 塩分が多いものを入れない。
- EM ボカシを惜しまず、たっぷりとふりかける。（特に、夏場は多めに！）  
※三角コーナー1杯の生ごみ500グラムに、少なくともEMボカシ20～30グラム（大さじ2～3杯）ほど
- 発酵臭ではない、嫌な臭いが出始めた場合は、ボカシを多めに入れる。または、砂糖を大さじ1杯入れる。
- 肉類や魚類を入れる場合は、ボカシを多めに入れる。
- EM ボカシと生ごみを混ぜたら、古いしゃもじなどで上からギュッと押して空気を抜く。
- 空気に触れないほうが良いので、フタはしっかり閉じる。
- 量が少ない始めのうちは、接する空気の量が多くなり、嫌な臭いの原因となる。その場合は、生ごみの上にビニール袋を敷いて、その上に重石などをのせて中蓋の代わりにする。
- 虫が発生した際は、ボカシを増やし、均等に混ぜる。

### プランター栽培の場合

①プランターの底に赤玉土や鉢底石を敷き、容器の1/3ほどの土を入れる。



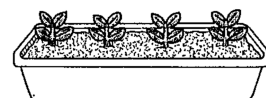
②できあがった EM 処理した生ごみを 1/3 ほど入れる。



③その上に土を入れる。（沈んでくるため、少し盛り上がるくらいに）

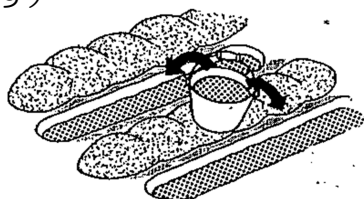


④そのまま、1～2週間たってから、種や苗を植える。（直ぐに植えると発育に障害がでることあり）

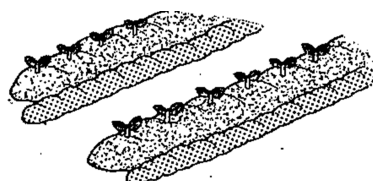


### 家庭菜園の場合

①畑の畝(うね)の間に穴を掘り（深さ20cm程度）、EM 処理した生ごみを入れ、その上に土をかぶせる。（野菜などから30cm以上離す）



②なるべく均一にしてから土を10cmかぶせ、1～2週間たってから種や苗を植える。



※動物に荒される場合は、波板などで通気性を確保しつつ、フタをしてください♪

# EMボカシ菌の作り方（上級者向け）

**準備するもの** ビニール袋（50L程度、厚めのもの）  
 収納容器（空気の遮断ができるもの）

ボカシは売っているけど、  
 安く手に入れたい人は作っ  
 てみよう♪



材料	量（容積）	量（重量）	備考
EMボカシ	1L	約300g	2回目からは自作EM菌で可
米ぬか	3L	約900g	
もみ殻	5L	約600g	
お湯	200cc	約200g	50℃以下で使用
砂糖水	大さじ×3		三温糖でも可

## 作り方



EMボカシ



米ぬか



もみ殻



② 収納袋の中で混合し、  
 砂糖水を加え、よく混ぜる。



① 50℃以下のお湯に  
 砂糖を入れる。



③ 収納袋中の空気を出し、  
 口を閉じる。



④ 収納容器に入れ、太陽光、風雨  
 の当たらない場所、温度変化の  
 少ない場所に設置する。

⑤ 1か月半ほどで、甘酸っぱい香りがすれば完成です！  
 EMボカシ菌ができます。この量は2～4か月分の生ごみ処理に使用可能です。  
 EM菌の残量がある状態で、この作業を繰り返せば、継続で使用できます。コスト◎